

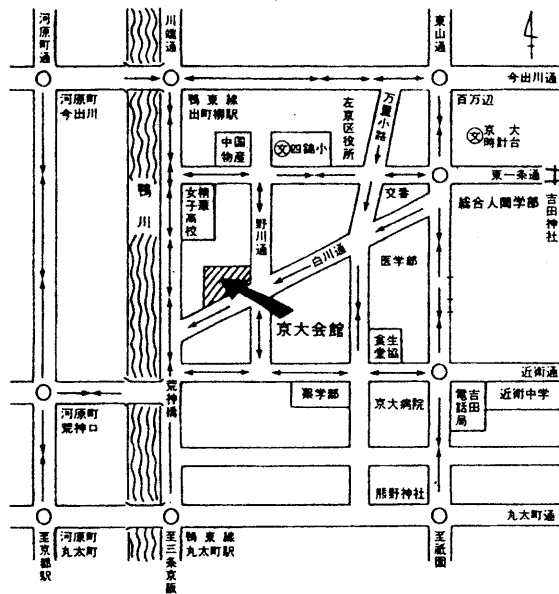
大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町34 京都橘女子大学図書館 小林倫道 気付
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

第18回 京都支部総会

日時：6月30日(金) PM6:30~8:00

場所：京大会館



(京大会館)

- JR京都駅より市バスA2のりば(206)東一条下車
- 四条京阪(前橋向い)より市バス(201)(31)東一条下車
- 三条京阪前口より京都バス5番乗場(出町橋由系統)荒神橋下車
- 京阪鴨東線丸太町駅下車徒歩約10分

次頁以下 総括 & 大会議案書 方針

〒606 京都市左京区吉田河原町15-9 075-751-8311 京大代表753-7531 内線7612 FAX761-5403

大学図書館問題研究会

第18回京都支部総会議案

【第1号議案】

1994年度活動総括（案）及び 1995年度活動方針（案）

はじめに

大学図書館をめぐる情勢は、近年のネットワーク化や学内LANの整備が進む中でドラスティックな変化を見せてきています。これらの新たな情報環境が出現してくる中で、利用者の要求に応えるためには「情報源へのアクセスの保証」（アクセシビリティの問題）と「情報入手可能性の増大」（アベイラビリティの問題）を図ることが必要になってきます。そしてこのことを実現するためには、ハード的な環境整備だけでは片手落ちであり、最も大切な人的資源をどのように育成して行くのかが、大変重要なポイントとなってくるのではないのでしょうか。

しかし、一方では従来から構築してきたサービスが定員削減や歪んだ合理化という名のもとに根底から崩れ落ちるような事態も訪れ始めてきています。具体的にはカウンター業務の非専任化や目録の品質低下などがあげられます。そこでこのような事態を踏まえ「図書館員の専門性とは一体何なのか」、もう一度捉え直す時期が来ているのではないのでしょうか。

大学図書館は、従来からのノウハウを生かしながら、利用者サービスをより高度なものにするための情報環境の変化として、これらの事象を積極的に受け止め展開してゆかなければならないでしょう。

このような状況のなかで、大学図書館問題京都支部は、図書館員のより高度な力量形成に向けて様々な活動を展開して来ました。

そこで、以下において1994年度の活動総括（案）と大学図書館問題研究会京都支部の活動をより発展させるための活動方針（案）を提案して行きたいと思えます。

1. 1994年度活動総括(案)

(1) 研究活動の重視

この間、利用者サービスの向上のためには図書館員の力量形成が決定的に重要であるという視点から研究活動を重視してきました。もちろんこれらの活動は、職場に返すことすなわち職場実践につなげることによって生きてくるものです。

1994年度の京都支部の活動は、この視点を柱として展開してきたのであり、この視点を中心に個々の活動について総括して行きたいと思います。

(2) 支部報の発行

支部報の発行については、ほぼ毎月1回の発行を成し遂げることができました。

この支部報は会員間のコミュニケーションの促進、研究成果の発表の場、京都支部の活動報告の場としての役割を果たしてきています。

今年度は、役に立つ記事としてのインターネット関連の記事、タイムリーでトピック的な記事としての阪神大震災関連の記事、会員間のコミュニケーションを促進するための京大相関索引研究グループの記事や図書館員による山頭火研究の記事、京都工芸製本人協会によるルリユードール展の紹介記事などを掲載しました。そしてさらには「大学図書館員京都研究集会」や「第25回大学図書館問題研究会全国大会」の広報や報告記事、問題提起的なライブラリアンシップに関する記事なども掲載し多種多様なものとなりました。

今後も読みやすく、役に立つ紙面づくりを心掛けたいと思います。

(3) 第3回大学図書館員京都研究集会について

第3回大学図書館員京都研究集会の実施にあたっては、まず全会員にアンケート調査を行い、広くニーズや意見を収集した上で、支部委員会で論議し、テーマを設定しました。

この研究集会では、①現在34.7%と言われている大学図書館における利用者教育の実施率を高めるためにはどうすればよいのか。②現在行われているガイダンスの問題点や課題を明らかにし、利用者の視点に立った学習理論に基づく利用者教育のあり方を模索する。③教員や医学図書館員が行っているカリキュラムに組み込まれた利用者教育の先進例に学び、それらを実現する方途を探る。という3つの柱建てをしました。

これらのことを踏まえて大城善盛先生(同志社大学教授)に基調報告をして頂き、事例報告を京都橘女子大学図書館、京都産業大学図書館、大阪市立大学図書館医学部分館、田口瑛子先生(京都精華大学教授)にお願いしました。

詳細については、支部報118号に掲載されていますが、内容が濃く大変よかったとの声を参加者から頂きました。関西のみならず、関東、中部、中国地方からもお越し頂き、総勢で80人の規模となりました。

また、この研究集会の記録集は有料で会員外にもお分けすることにしたところ好評であり、今なお継続して申し込みがあります。

研究集会が成功を納めることができたのは、丁寧な議論をした結果、皆さんの問題意識に合致したことに加えて、『図書館雑誌』などに広報を掲載したことも理由としてあげられるでしょう。このような広報活動は、第Ⅲ期大図研大学でも有効であったこともあり、今後も積極的に展開して行きたいと思います。

(4) 財政活動について

今年度は研究集会が成功に終わり、支部としては健全な財政活動を展開することが出来ました。

また、会費値上げの提起については、支部委員会でかなり時間をかけて論議し、支部報でもお知らせし、全国委員会へ返して行くことを行いました。この財政問題は、活動の根幹に関わることであり、これに見合った活動を展開する必要があるでしょう。

(5) その他

1994年度は横断的な研究会の組織や出版事業を行うなどの方針を定めましたが、これらのことに関しては残念ながら到達することが出来ませんでした。

しかしながら、支部報の119号にも掲載されましたが京大相関索引グループが人文社会科学分野の相関索引作業を終え、次の段階としてDCの翻訳を手掛け始めるなど、積極的な活動も展開して来ています。

このような研究会活動は極めて重要であり、支部として活性化するよう支援して行きたいと思います。

2. 1995年度活動方針(案)

(1) 研究活動のさらなる発展とネットワークづくりの重視

研究活動の重視は、京都支部の最も重要なテーマであり、1995年度の活動においてもより発展させて行きたいと思います。

そして今年度は、この活動から研究会の組織化など、新たな図書館員のネットワークが生まれるような”仕掛け”づくりをして見たいと思います。

また、この”ネットワークづくり”や”楽しい大図研づくり”のためにも交流につながる活動も重視して行きたいと思います。

(2) 研究集会について

今年度は、(3)で詳細については述べますが、第Ⅳ期大図研大学を休講とする代わりに秋と春に2回の研究集会を持ちたいと思います。

秋の研究集会については、現在支部委員会で議論していますが、今みなさんが一番注目している「インターネット」をテーマとして実際に体験して頂く企画を持ちたいと思います。

春については、あくまでこれは案ですが、「収書」をテーマとして、特色あるコレクションづくりや限られた財政の中で工夫しながら収集を行っているなどの例を交流、報告し合う方式を取りたいと思っています。

(3) 第Ⅳ期大図研大学について

第Ⅳ期大図研大学については、1995年度に実施する予定になっていましたが、①連続講義形式で行えるテーマを設定するのが困難である。②今やるからこそ意義のあるトピック的な研究集会のほうがニーズが高いであろう。などの理由により第Ⅳ期大図研大学については、1995年度は休講とする方向性を持ちたいと思います。

(4) 支部報について

支部報については、今年度も財政上の問題から手作りのものとなります。自己満足になるかもしれませんが、内部印刷には大変よい出来になっていると思います。

今年度も発行は毎月を目指し、「問題提起的なもの」や「トピック的なもの」、「役に立つもの」などを出来るだけ多くの人に執筆して頂けるよう努力したいと思います。

(5) 会員を増やす活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めたいと思います。

このことは、活動を内容的にも、組織的にも、さらには財政的にも強化するものであり各会員のところで意識的に進めましょう。

(6) 会費を全員が全額を前納します

大学図書館問題研究会の財政は、この間の会費値上げ問題を見ても明らかである様に、現状の活動が維持できないほど危機的な状況にあります。京都支部の会費納入率の動向は全国的にも大きな影響をもっており、京都支部の活動自体にも大きな影響を与えます。したがって、会員としての義務である会費納入を全員が積極的に行いましょう。

(以下の議案は当日配布)

【第2号議案】 1994年度決算報告と1995年度予算および会計監査報告

【第3号議案】 1995年度支部役員選挙

大図研掲示板

下記4タイトル(すべて未登録、製本済)、取りに来られる方に差し上げます(締切;今年7月末)。

「美学」美学会編	1-39号(1950-89)
「同志社美学」同志社美学会編	1-19号(1954-73)
「服飾美学」服飾美学会編	1-18号(1971-89)
「人文学」同志社大学人文学会	1-140号(1948-84)

(申込先)

同志社大学人文科学研究所 竹本文夫 (TEL)075-251-3940
(FAX)075-251-3062

目次	大学図書館問題研究会 第18回京都支部総会議案書号
----	------------------------------